

県内のごみ処理状況について

(平成19年度速報値)

(1) ごみゼロプランに掲げる数値目標に関する進捗状況

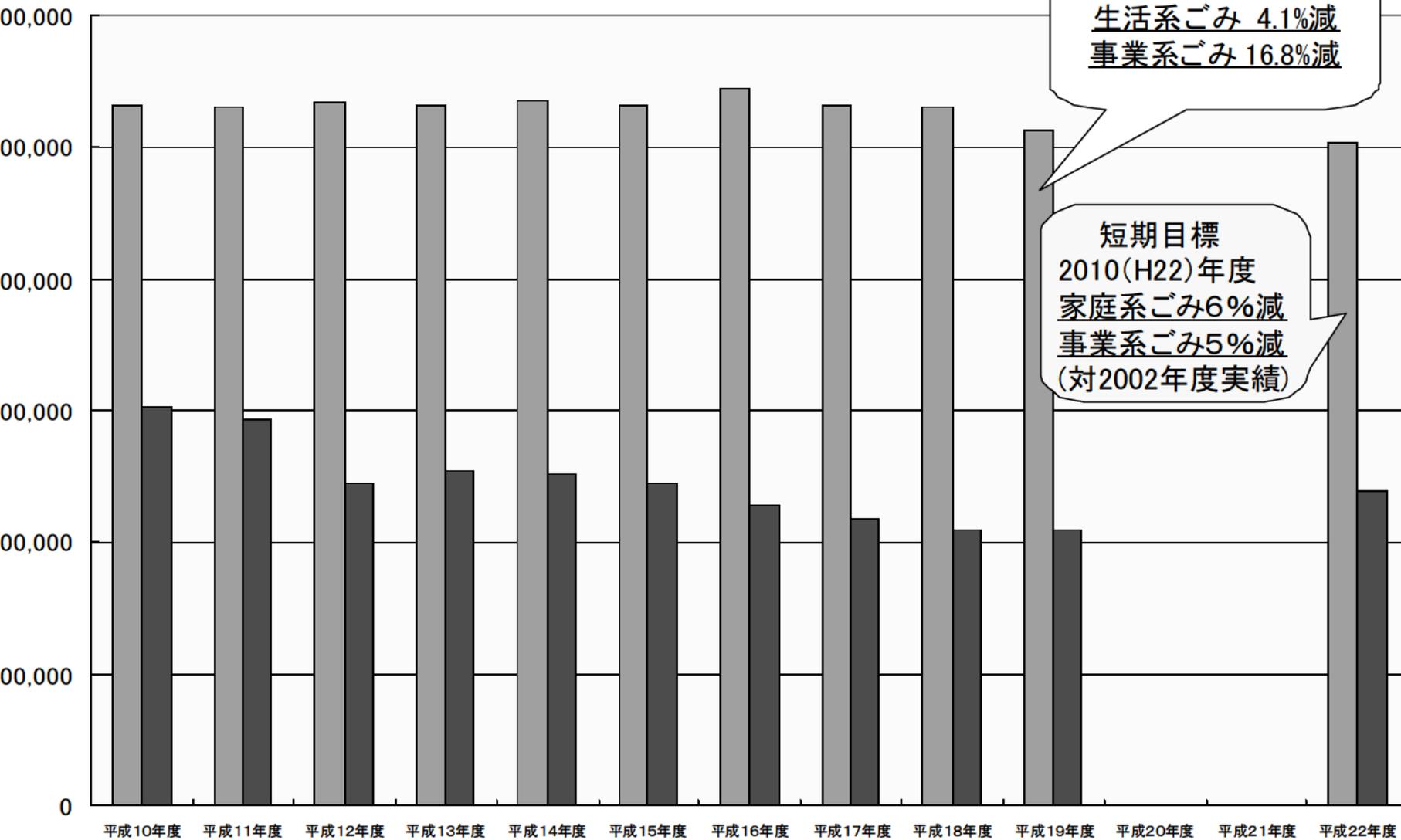
指標名		2002(H14)	2006(H18)	2007(H19)	2002年度比	短期目標	中期目標	数値目標
		年度 (確定値)	年度 (確定値)	年度 (速報値)		2010 (H22)	2015 (H27)	2025 (H37)
ごみ排出量 (2002年度比)	生活系ごみ	535,198	531,070	513,009	-4.1%	-6.0%	-13.0%	-30.0%
	事業系ごみ	251,733	209,362	209,526	-16.8%	-5.0%	-13.0%	-30.0%
資源としての再利用率		14.0%	16.3%	15.1%		21.0%	30.0%	50.0%
		110,781	120,776	109,825				
(参考)資源化率		22.4%	31.8%	31.1%				
資源化量		183,305	243,623	232,092	26.6%			
集団回収量		29,629	25,163	24,553	-17.1%			
最終処分量		151,386	83,051	84,027	-44.5%	81,000	76,000	

(トン/年)

(2) ごみ排出量の推移

t/年

ごみ排出量の推移



2007 (H19)速報値
生活系ごみ 4.1%減
事業系ごみ 16.8%減

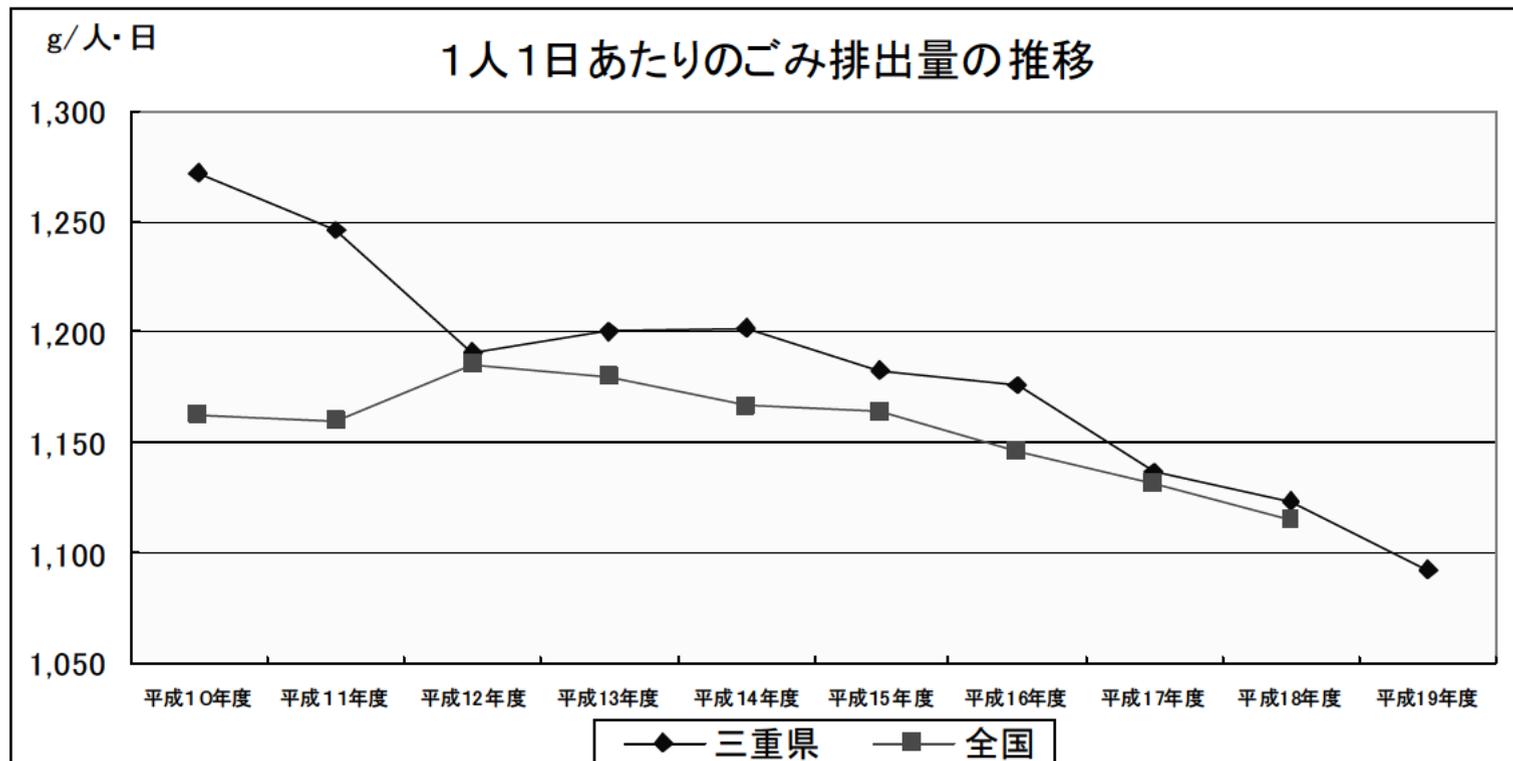
短期目標
2010 (H22)年度
家庭系ごみ6%減
事業系ごみ5%減
(対2002年度実績)

■ 生活系ごみ ■ 事業系ごみ

(3) 1人1日あたりのごみ排出量

平成14年度以降、減少傾向にはあるものの、平成18年度の実績では1,123gと全国平均1,115gに比べて依然多い状況にある。

平成19年度における市町ごとのごみ排出量を比較すると、最大は1,582g（鳥羽市）、最小は692g（朝日町）と市町間で大きな格差がある。



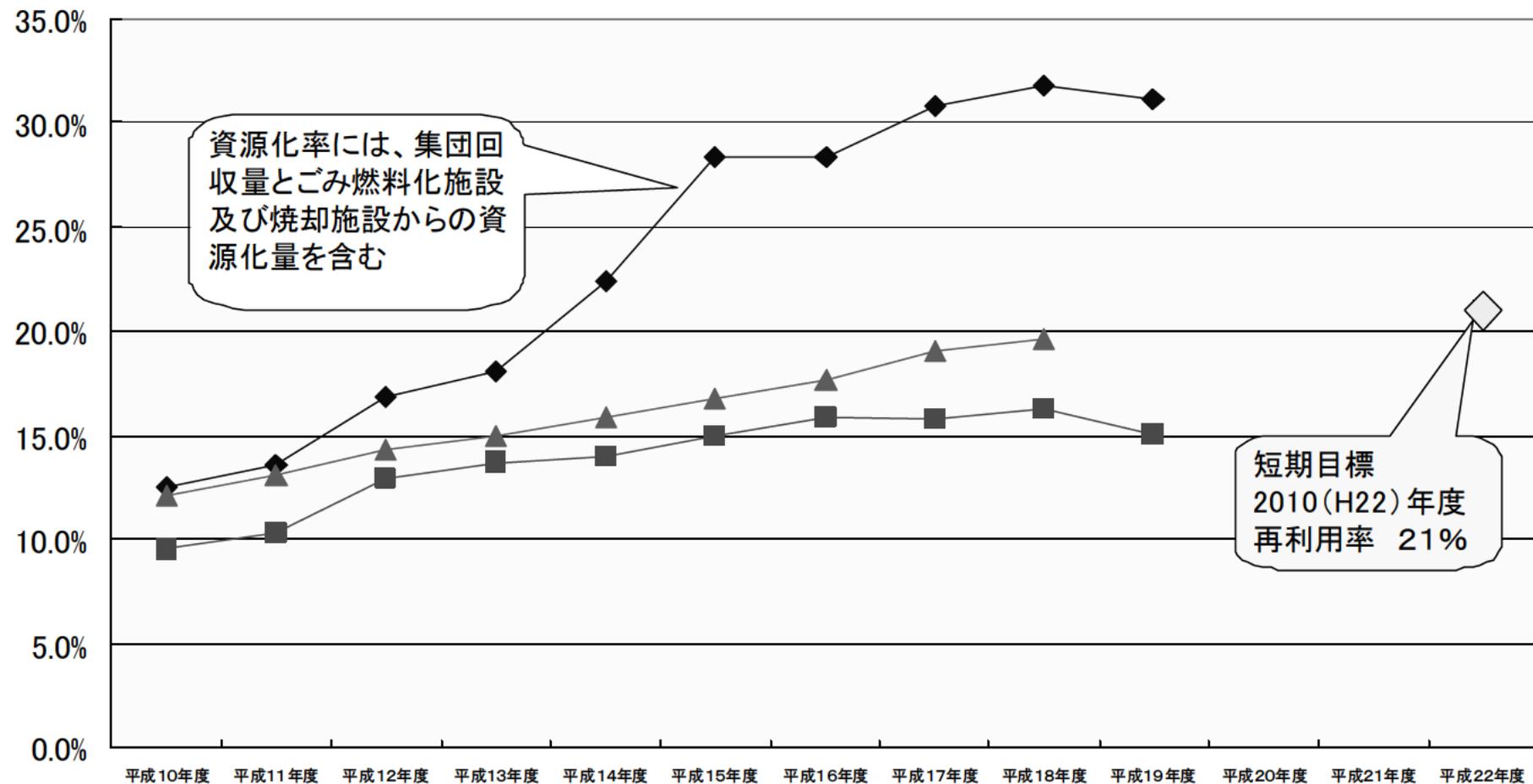
* 国におけるごみ総排出量の集計方法の見直し

【H16年度まで】ごみ総排出量 = 計画収集量 + 直接搬入量 + 自家処理量

【H17年度から】ごみ総排出量 = 計画収集量 + 直接搬入量 + 集団回収量

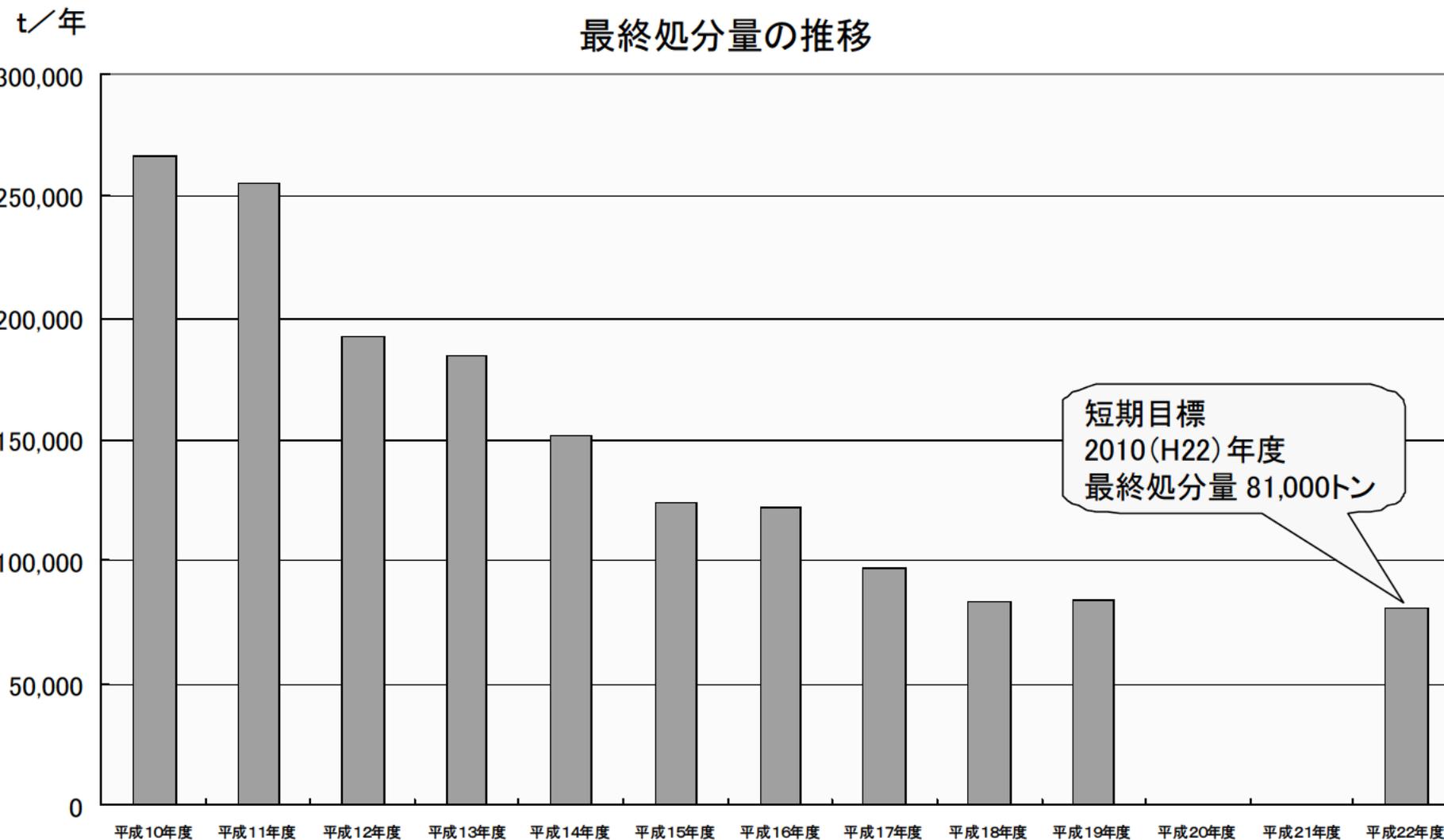
(4) 資源としての再利用率の推移

資源としての再利用率の推移

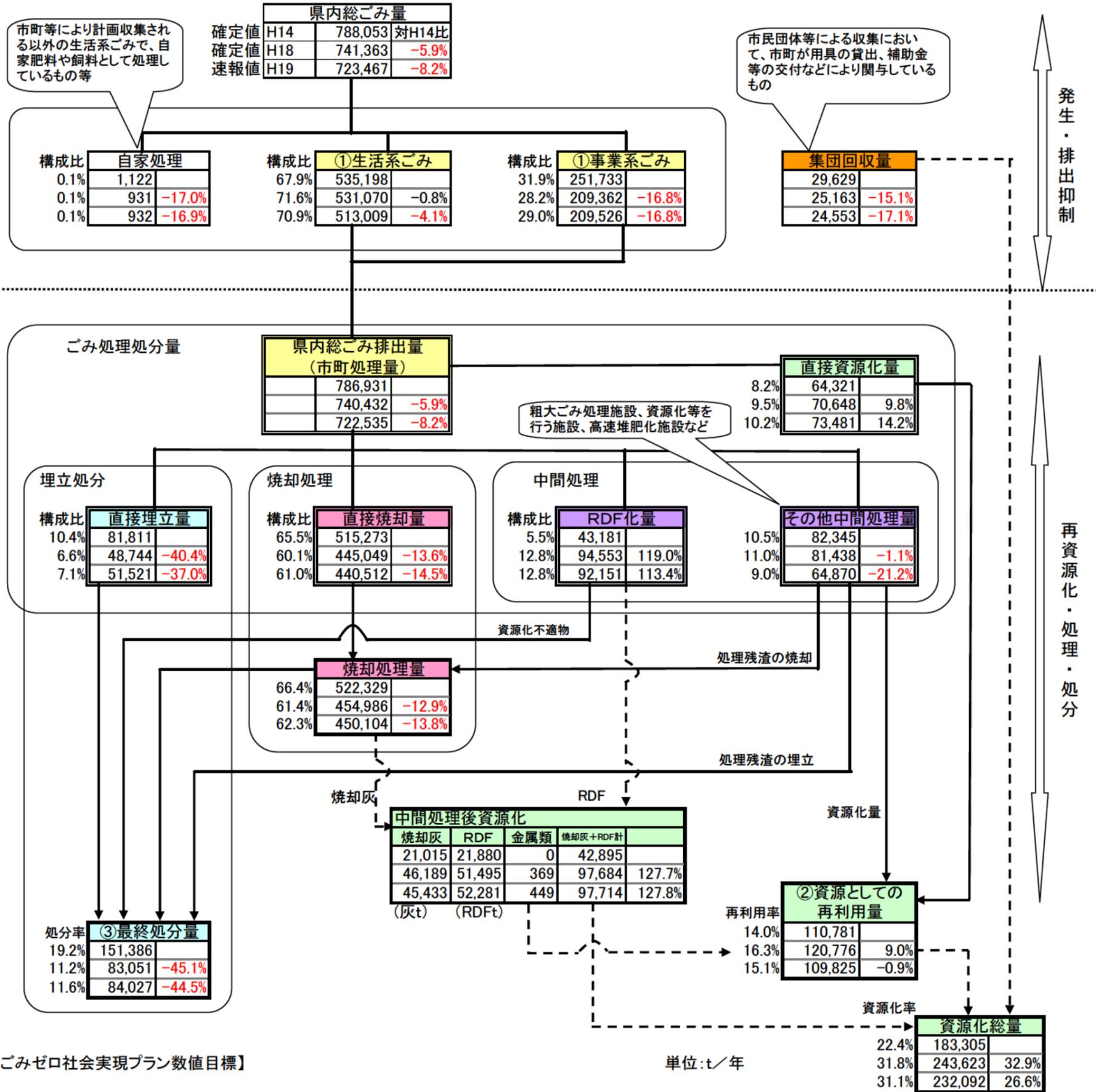


■ 資源としての再利用率 ◆ 資源化率 ▲ 資源化率(全国)

(5) 最終処分量の推移



ごみゼロ社会実現プランの数値目標との比較



【ごみゼロ社会実現プラン数値目標】

① 発生・排出抑制に関する目標

指標名	目標値
ごみ排出量削減率 = $\frac{2002年度における県内総ごみ排出量 - \text{目標年度における県内総ごみ排出量}}{2002年度県内総ごみ排出量}$	家庭系ごみ 30% 事業系ごみ 30% (対2002年度実績) 【参考】2002実績 2025目標 家庭系 535千t→375千t 事業系 252千t→176千t

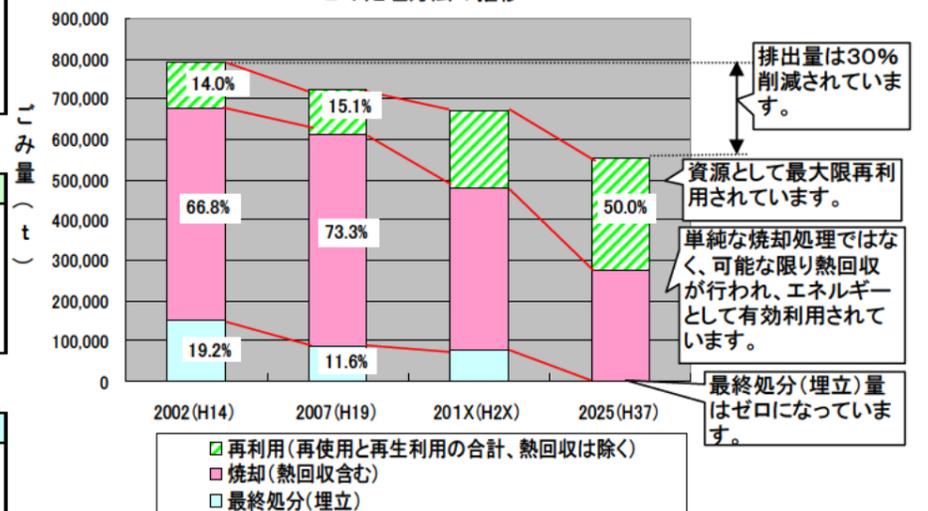
② 資源の有効利用に関する目標

指標名	目標値
資源としての再利用率 = $\frac{\text{県内総ごみ排出量のうち、再利用率された量}}{\text{県内総ごみ排出量}}$	50% 【参考】2002実績 2025目標 14% → 50%

③ ごみの適正処分に関する目標

指標名	目標値
ごみの最終処分量 = $\frac{\text{県内総ごみ排出量のうち、最終処分された量(災害等特殊要因によるものを除く)}}{\text{県内総ごみ排出量}}$	0t 【参考】2002実績 2025目標 151,386t → 0t

ごみ処理方法の推移



生活系ごみ排出量とごみ減量化施策

市町名	H14(2002) 生活系ごみ 排出量 (t) A		H17(2005) 生活系ごみ 排出量 (t) B		H18(2006) 生活系ごみ 排出量 (t) C		H19(2007) 生活系ごみ 排出量 (t) D			モデル事業 実施				ごみ 有料化 導入	廃棄物 会計 実施	備考
	対H14 ごみ増減量 B - A	対H14 増減率 (%)	対H14 ごみ増減量 C - A	対H14 増減率 (%)	対H14 ごみ増減量 D - A	対H14 増減率 (%)	県全体 に占める 生活系ごみ 割合 (%)	対H14 ごみ増減量 D - A	対H14 増減率 (%)	住民参画に よるごみ処 理計画づく り	生ごみ 堆肥化	家庭ごみ 有料化 導入	レジ袋 有料化			
津市	83,882	81,702	2,180	2.6	85,763	1,881	2.2	80,087	15.6	3,795	4.5					H19モデル、H18:市町村合併後の新たな処理体制の検討
四日市市	85,090	85,592	502	0.6	85,136	46	0.1	82,909	16.2	2,181	2.6					H17,H18:ごみ処理システムの最適化検討
伊勢市	46,063	39,909	6,154	13.4	40,227	5,836	12.7	38,821	7.6	7,242	15.7					H19モデル、H17,H18:収集運搬経費等の検討
松阪市	49,062	48,101	961	2.0	48,625	437	0.9	46,411	9.0	2,651	5.4					
桑名市	38,785	37,156	1,629	4.2	38,086	699	1.8	37,711	7.4	1,074	2.8					H17モデル、H14.4(可燃、不燃、プラ):15円/袋
鈴鹿市	50,886	53,019	2,133	4.2	53,590	2,704	5.3	53,274	10.4	2,388	4.7					
名張市	18,720	22,195	3,475	18.6	20,779	2,059	11.0	21,098	4.1	2,378	12.7					H20.4(可燃、不燃):68円/袋
尾鷲市	9,275	8,191	1,084	11.7	7,807	1,468	15.8	7,591	1.5	1,684	18.2					
亀山市	14,531	14,166	365	2.5	14,407	124	0.9	14,290	2.8	241	1.7					
鳥羽市	6,766	6,106	660	9.8	5,767	999	14.8	5,452	1.1	1,314	19.4					H18モデル、H18.10(可燃、不燃):45円/袋
熊野市	8,060	7,668	392	4.9	7,692	368	4.6	7,333	1.4	727	9.0					
いなべ市	12,882	16,424	3,542	27.5	14,353	1,471	11.4	12,644	2.5	238	1.8					
志摩市	15,889	17,217	1,328	8.4	17,664	1,775	11.2	17,639	3.4	1,750	11.0					H16.10(可燃、不燃、資源):50円/袋
伊賀市	29,190	28,189	1,001	3.4	27,820	1,370	4.7	25,583	5.0	3,607	12.4					H17モデル、H19.1(可燃、不燃):20円/袋
市計	469,081	465,635	3,446	0.7	467,716	1,365	0.3	450,843	87.9	18,238	3.9					
木曾岬町	2,117	2,014	103	4.9	1,938	179	8.5	1,594	0.3	523	24.7					S50(可燃、不燃、プラ):35円/袋
東員町	7,068	6,922	146	2.1	7,102	34	0.5	6,891	1.3	177	2.5					H18モデル
菰野町	10,969	10,519	450	4.1	8,290	2,679	24.4	8,197	1.6	2,772	25.3					H17,H18:分別収集の効率化の検討
朝日町	1,709	1,811	102	6.0	1,881	172	10.1	1,888	0.4	179	10.5					
川越町	3,004	3,099	95	3.2	3,133	129	4.3	3,084	0.6	80	2.7					
多気町	3,649	4,674	1,025	28.1	4,535	886	24.3	4,511	0.9	862	23.6					
明和町	5,061	5,101	40	0.8	5,261	200	4.0	5,207	1.0	146	2.9					
大台町	2,528	2,768	240	9.5	2,823	295	11.7	2,902	0.6	374	14.8					
玉城町	3,840	4,080	240	6.3	3,705	135	3.5	4,149	0.8	309	8.0					
度会町	2,416	2,176	240	9.9	2,170	246	10.2	2,155	0.4	261	10.8					
大紀町	2,898	2,936	38	1.3	2,939	41	1.4	2,758	0.5	140	4.8					
南伊勢町	6,404	5,561	843	13.2	5,313	1,091	17.0	5,350	1.0	1,054	16.5					H17.10(可燃):30円/袋
紀北町	7,178	7,159	19	0.3	6,937	241	3.4	6,392	1.2	786	11.0					
御浜町	3,249	3,266	17	0.5	3,277	28	0.9	3,106	0.6	143	4.4					
紀宝町	4,027	3,996	31	0.8	4,050	23	0.6	3,982	0.8	45	1.1					H17モデル
町計	66,117	66,082	35	0.1	63,354	2,763	4.2	62,166	12.1	3,951	6.0					袋/45リットル
県計	535,198	531,717	3,481	0.7	531,070	4,128	0.8	513,009	100.0	22,189	4.1					

事業系ごみ排出量

市町名	H14(2002) 事業系ごみ 排出量 (t) A	H17(2005) 事業系ごみ 排出量(t) B		H18(2006) 事業系ごみ 排出量(t) C		H19(2007) 事業系ごみ 排出量(t) D			処理手数料 の値上げ	備考		
		対H14 ごみ増減量 B-A	対H14 増減率(%)	対H14 ごみ増減量 C-A	対H14 増減率(%)	県全体 に占める 事業系ごみ割合 (%)	対H14 ごみ増減量 D-A	対H14 増減率(%)				
津市	61,725	46,744	14,981	24.3	35,198	26,527	43.0	40,934	19.5	20,791	33.7	(11.0円/kg 15.0円/kg) H16.4
四日市市	44,445	40,256	4,189	9.4	37,945	6,500	14.6	37,195	17.8	7,250	16.3	(10.5円/kg 16.0円/kg) H17.10
伊勢市	16,763	17,750	987	5.9	19,003	2,240	13.4	17,840	8.5	1,077	6.4	
松阪市	20,158	18,709	1,449	7.2	18,170	1,988	9.9	17,714	8.5	2,444	12.1	
桑名市	15,344	17,144	1,800	11.7	18,645	3,301	21.5	18,151	8.7	2,807	18.3	
鈴鹿市	19,135	22,284	3,149	16.5	21,203	2,068	10.8	20,566	9.8	1,431	7.5	(10.5円/kg 16.0円/kg) H18.4
名張市	16,366	12,288	4,078	24.9	13,777	2,589	15.8	12,194	5.8	4,172	25.5	(3.0円/kg 6.0円/kg) H19.10
尾鷲市	1,366	1,460	94	6.9	1,447	81	5.9	1,666	0.8	300	22.0	
龜山市	4,516	4,905	389	8.6	5,267	751	16.6	5,072	2.4	556	12.3	
鳥羽市	8,527	7,035	1,492	17.5	7,063	1,464	17.2	6,798	3.2	1,729	20.3	(5.0円/kg 8.0円/kg) H18.10
熊野市	849	974	125	14.7	1,056	207	24.4	1,100	0.5	251	29.6	
いなべ市	2,351	2,724	373	15.9	2,876	525	22.3	3,106	1.5	755	32.1	
志摩市	10,490	7,422	3,068	29.2	6,768	3,722	35.5	6,551	3.1	3,939	37.6	
伊賀市	17,529	6,296	11,233	64.1	5,670	11,859	67.7	5,167	2.5	12,362	70.5	(2.1円/kg 10.0円/kg) H15.4
市計	239,564	205,991	33,573	14.0	194,088	45,476	19.0	194,054	92.6	45,510	19.0	
木曾岬町	165	248	83	50.3	313	148	89.7	292	0.1	127	77.0	
東員町	315	151	164	52.1	369	54	17.1	376	0.2	61	19.4	
菰野町	2,382	2,487	105	4.4	4,807	2,425	101.8	4,633	2.2	2,251	94.5	
朝日町	8	180	172	2,150.0	189	181	2,262.5	170	0.1	162	2,025.0	
川越町	55	313	258	469.1	319	264	480.0	300	0.1	245	445.5	
多気町	100	271	171	171.0	295	195	195.0	328	0.2	228	228.0	
明和町	2,645	2,715	70	2.6	2,722	77	2.9	2,531	1.2	114	4.3	
大台町	160	220	60	37.5	348	188	117.5	522	0.2	362	226.3	
玉城町	1,085	1,001	84	7.7	1,546	461	42.5	928	0.4	157	14.5	
度会町	113	487	374	331.0	436	323	285.8	374	0.2	261	231.0	
大紀町	134	179	45	33.6	211	77	57.5	222	0.1	88	65.7	
南伊勢町	559	648	89	15.9	780	221	39.5	681	0.3	122	21.8	
紀北町	4,393	3,060	1,333	30.3	2,885	1,508	34.3	4,059	1.9	334	7.6	
御浜町	0	0	0	-	0	0	-	0	0.0	0	-	
紀宝町	55	54	1	1.8	54	1	1.8	56	0.0	1	1.8	
町計	12,169	12,014	155	1.3	15,274	3,105	25.5	15,472	7.4	3,303	27.1	
県計	251,733	218,005	33,728	13.4	209,362	42,371	16.8	209,526	100.0	42,207	16.8	

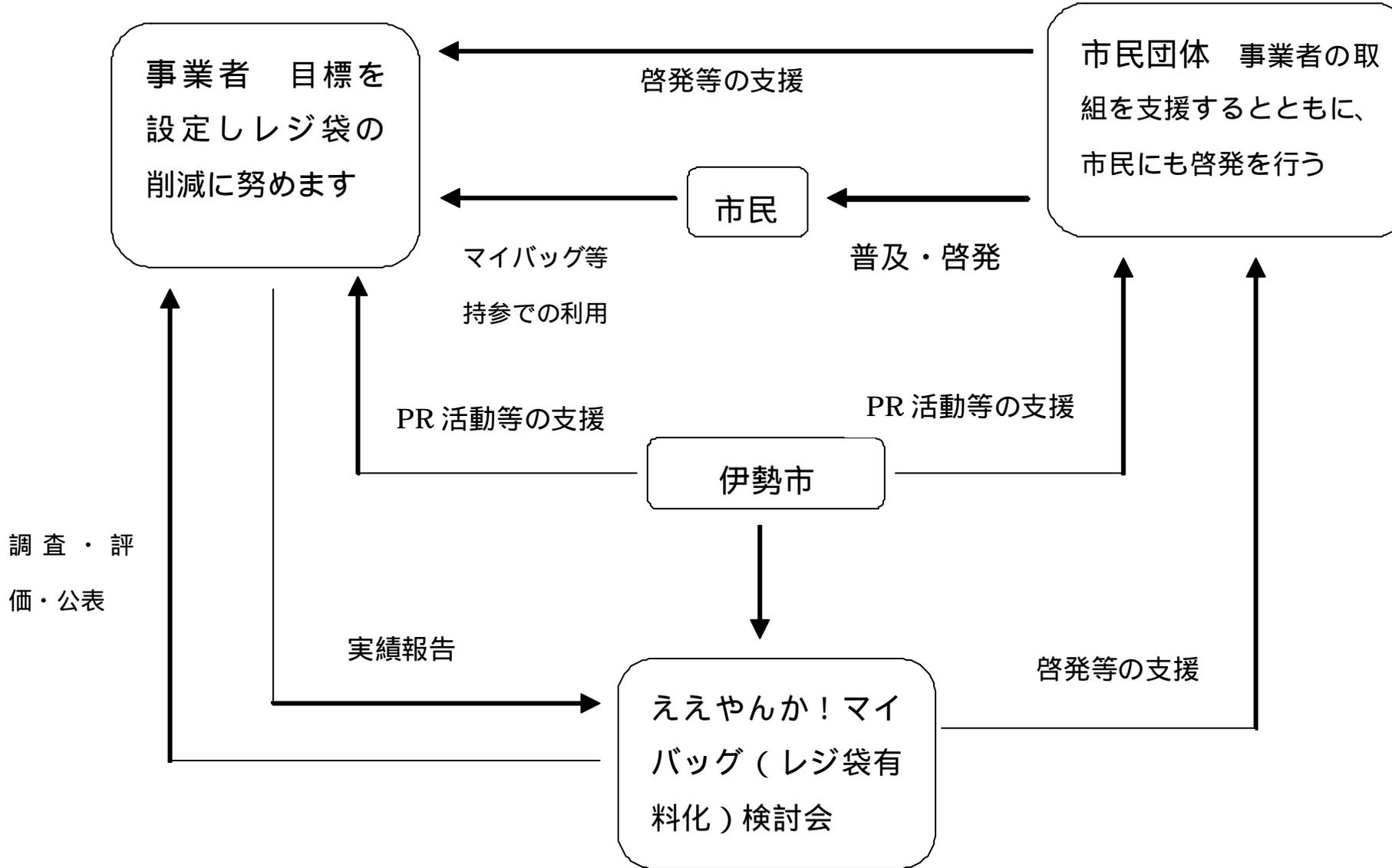
平成19年度ごみゼロ社会実現プラン推進モデル事業 一覧

市町	補助対象 事業費	交付 確定額	事業概要
伊勢市	円 958,944	円 479,000	<p>「レジ袋の削減(有料化の導入)検討事業」</p> <p>さらなるレジ袋の削減をめざして、市民・事業者・市等で構成される「ええやんかマイバッグ(レジ袋有料化)検討会」において、マイバッグ持参率50%以上実現のため、レジ袋有料化も含めた議論を進め、事業者との自主協定の締結や、市民への啓発活動等を展開する。</p>
伊勢市	1,811,850	905,000	<p>「埋立ごみ(ガラス・陶磁器くず)の分別収集システム検討事業」</p> <p>リサイクルの一層の進展や最終処分量の削減をめざして、新たな分別区分(ガラス・陶磁器くず)の実施にあわせて、自治会単位での回収ステーション整備を行い、自治会による自主・自律的な集団回収への移行を促進する。</p>
津市	1,392,000	696,000	<p>「エコパートナー・ネットワーク推進事業」</p> <p>市民が自発的にごみの減量化や環境について「知る」「考える」「行動する」雰囲気づくりと実践をめざし、ごみ焼却施設内に市民が運営する市民エコ活動センターを開設し、ここを活動拠点・市民へのエコ情報発信基地として、ごみの減量化・エコ活動を行う人づくり・ネットワークづくりを展開する。</p>

合 計	4 162 794	2 080 000
-----	-----------	-----------

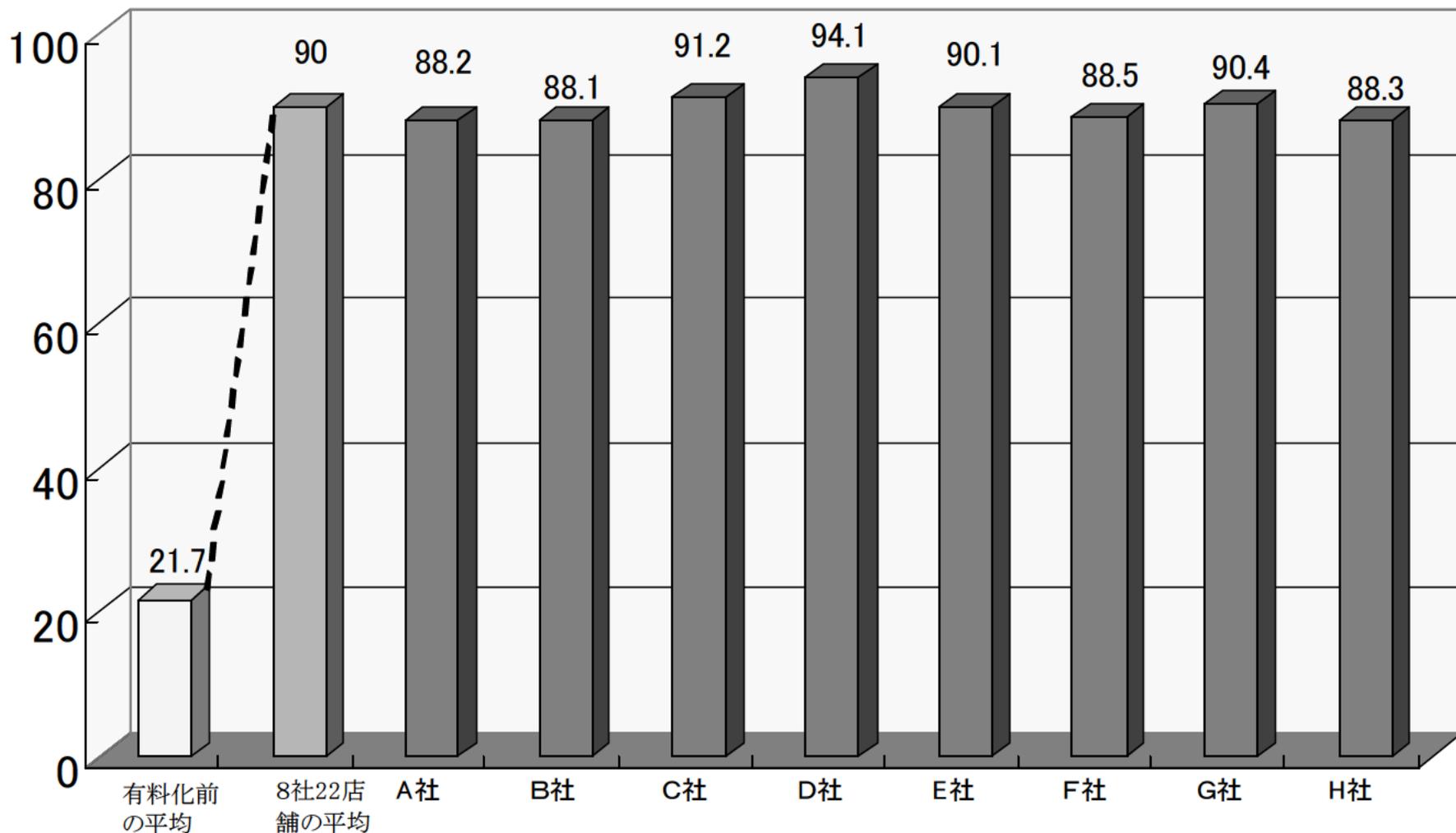
伊勢市「レジ袋削減(有料化の導入)検討事業」

- 推進体制 -



「伊勢市レジ袋有料化」開始後8ヶ月間のマイバッグ持参率 (スーパー事業者 各8社ごと/全体 平均値) %

H19.10 - H20.5



店舗数 イオン:1、オークワ:2、ぎゅーとら:9、コープみえ:1、とよはたベリー:4、
マックスバリュ 中部:3、コープストア:1、バロー:1

H19ごみゼロプラン推進モデル事業(1)

伊勢市：レジ袋削減(有料化の導入)検討事業」

1.事業のねらい

多くの住民が日常生活の中で関わる「レジ袋」を通して、地域住民がごみの減量化を意識し実践していくため、「レジ袋の有料化・マイバッグ持参の推進」について検討する取組をモデルとして支援し、県内市町への普及を目指す。

2.事業の成果

1. 検討会の議論を通じて、各主体の意識が高まり、レジ袋の有料化に向けた共通認識を形成することができた。
2. スーパー等事業者にも、レジ袋削減の取組の意義の理解が深まり、参画事業者の拡大につながった。
3. 市民団体をはじめ、商店街や商工会議所等も含めた、地域全体で取組をサポートする体制がつけられた。
4. 告知キャンペーン等、事前PRを検討会メンバーの手で行ったことで、市民の取組への理解が促進され、レジ袋有料化の気運が醸成された。
5. 平成19年9月21日より、全国に先駆けて、市内全域の主要スーパー全店(7社21店舗)における、レジ袋の有料化が一斉にスタートした。
6. 有料化実施店舗においては、大きな混乱等もなく、スタート半年間でのマイバッグ持参率は、当初目標(50%以上)を大きく上回る90%前後を維持し、大変順調に推移している。

3.課題

・マイバッグ持参率を引き続き維持し高めていくこと、スーパー事業者以外にも取組の輪を広げていくこと、近隣市町と連携して広域での取組を図ること、有料化に伴う「収益金」の取り扱いを検討すること等が求められる。

4.今後の取組

事業者・市民・行政が一体となって、市民のモチベーションを維持・高める方策の検討と実施を進めるとともに、さらなる取組の輪を広げるため、コンビニエンスストア・ホームセンター・ドラッグストア・衣料専門店などへも参画を働きかける。

・有料化の「収益金」について、市民に納得いただける地域への還元のあるあり方を検討する。

・市は、レジ袋以外の包装資材の削減を図るため、白色トレイ等の包装資材の利活用・回収・処理について見直しを進める。

・市は、全国の先駆けとなった市全体でのレジ袋有料化・ごみ減量化の取組を、「観光のまち伊勢」として観光客の方々等へもPRを推進し、魅力ある地域づくりに取り組む。

5.今後の検証・フォローの視点

有料化検討会の枠組みを引き続き活用し、

・各店舗のマイバッグ持参率の推移の把握や住民への周知・啓発を継続して行うこと、

・店頭アンケート実施などによる住民意識の把握とそれを踏まえた取組展開を図ること

・有料化に伴う収益金のモデル的・効果的な還元の方法を検討すること、

等について、市（検討会）に対して働きかけていく

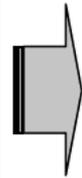
マイバッグ持参率や取組のその後のフォロー状況について、広く地域住民に周知する。

伊勢市「埋立ごみ(ガラス・陶磁器くず)等の 分別収集システム検討事業」

地域自治会の集団回収(住民持込)による資源ごみの回収と処理の仕組みづくり

○集団回収ステーションの整備 → 主に郊外部の住宅地等に自治会単位で1箇所(計2箇所)

新分別収集区分である「ガラス」と「陶磁器くず」
「ガラス」: 飲料びん(色別分別) / その他ガラス類
「陶磁器くず」: 種別の分別はせず(そのまま混在)



- ◇市が処理ルートを確認
- ◇市が搬出、事業者がリサイクル処理

その他資源ごみ(新聞紙、アルミ缶等)
ステーションへ回収、集積

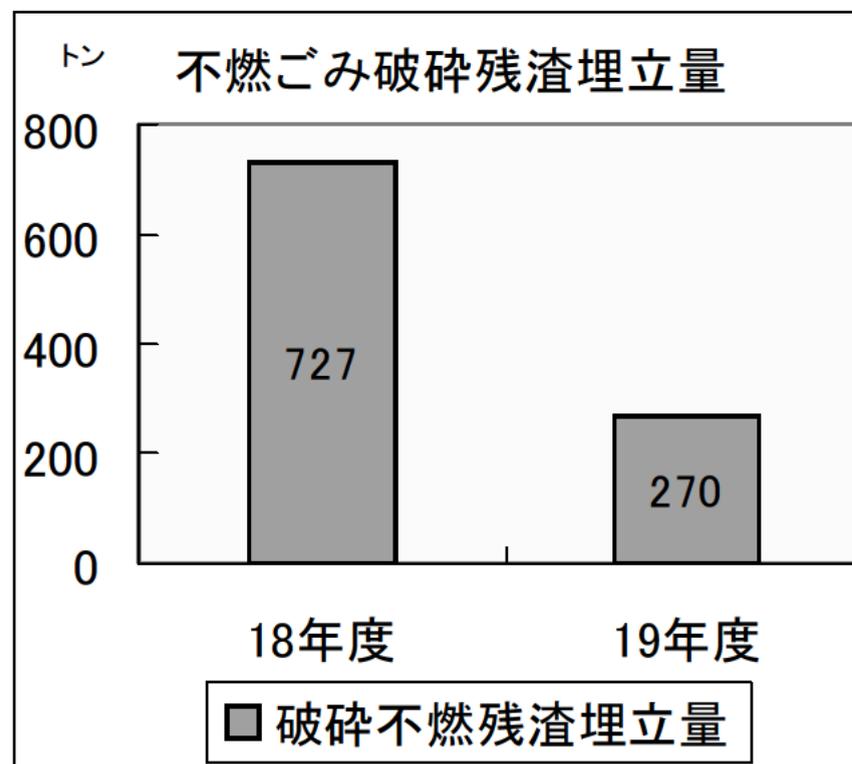
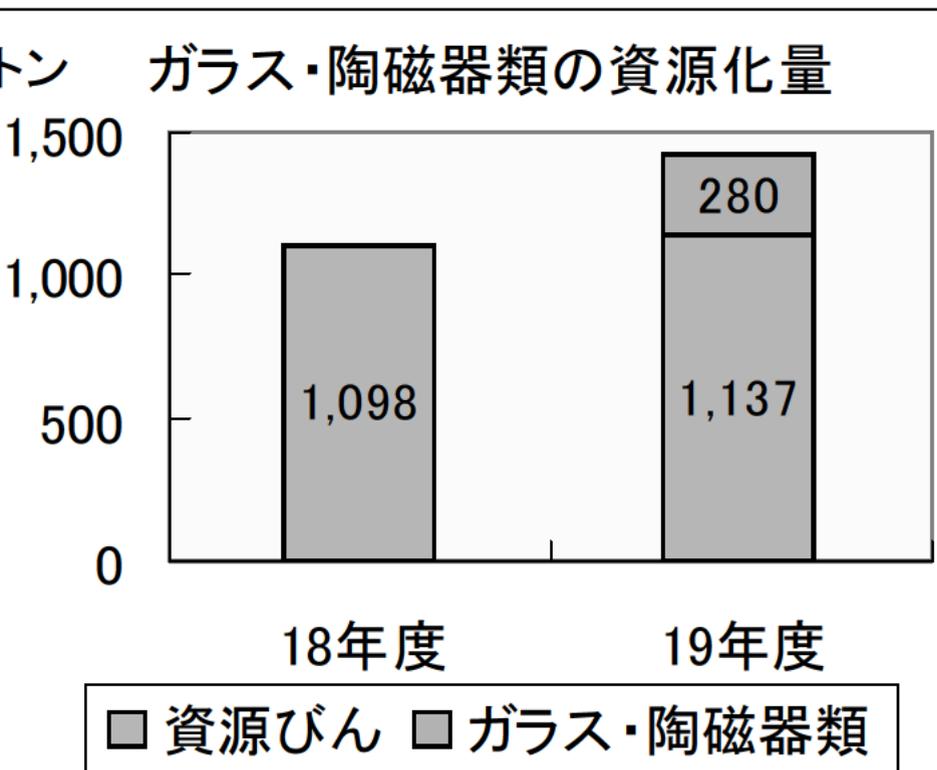


- ◇市が売却ルートを調整支援
- ◇自治会が売却し、自らの収益に



年間約1000トンの埋立ごみの半分以上を占めると推定されるガラス・陶磁器くず類の削減へ

ガラス・陶磁器類の資源化量及び不燃ごみ埋立量の実績



H19ごみゼロプラン推進モデル事業(2)

伊勢市：埋立ごみ(ガラス 陶磁器くず)の分別収集システム検討事業」

1.事業のねらい

新たな分別収集区分の実施にあわせて、最終埋立処分されるごみの削減をめざして、埋立ごみ(ガラス 陶磁器くず)の回収・処理が、資源ごみの回収・売却も含めて地域住民の手によって主体的・自律的に担われる取組を市が支援する仕組みを、モデルとして支援し、県内市町への普及を目指す。

2.事業の成果

1. ガラス類(ガラス食器・板ガラス)・陶磁器類(茶碗・湯のみ)の分別回収・リサイクル処理を開始したことにより最終埋立処分量が減少しており、当ステーションがその一端を担っている。
2. ガラス類・陶磁器類それぞれに処理ルートを確保したことにより、安定的なリサイクルが実現した。
3. 資源物の売却益が自治会の収入になることで、ステーションの安定的な運営に寄与している。
4. 今後の市内他地域への設置拡大をはかる上で、当2ヶ所のステーション整備運営が有用なモデルケースとなった。

3.課題

収集拠点ステーションによる分別収集のシステムを、今後さらに市内の他地域に拡大させ、地域住民による自主的な管理・運営が行われ、より一層の埋立ごみの削減と安定的なリサイクルにつなげていくことが求められる。

4.今後の取組

地元自治会の運営による収集拠点システムを市内全域に広げ、ごみ減量のみならず、地域のコミュニティ形成の場としてのステーションの活用方法も検討する。

ステーション運営を通じて、ごみを減らす取組を地域でよく話し合い、ごみを資源と捉えることをひとつの足がかりとして、地域の色々な課題の解決にもつなげていく。

従来は近場へごみ出しが可能となっていたため、収集システムの変更に伴い、高齢者・障がい者等の方々への個別対策(基準を設けて戸別収集等)について検討・対応を図る。

資源ごみ売却による収入と資源物回収奨励金を施設の維持管理費等としているが、資源物売却額は経済変動等の影響を強く受けるため、安定して継続的な事業を行えるよう必要に応じて支援制度の見直しを行う必要がある。

5.今後の検証・フォローの視点

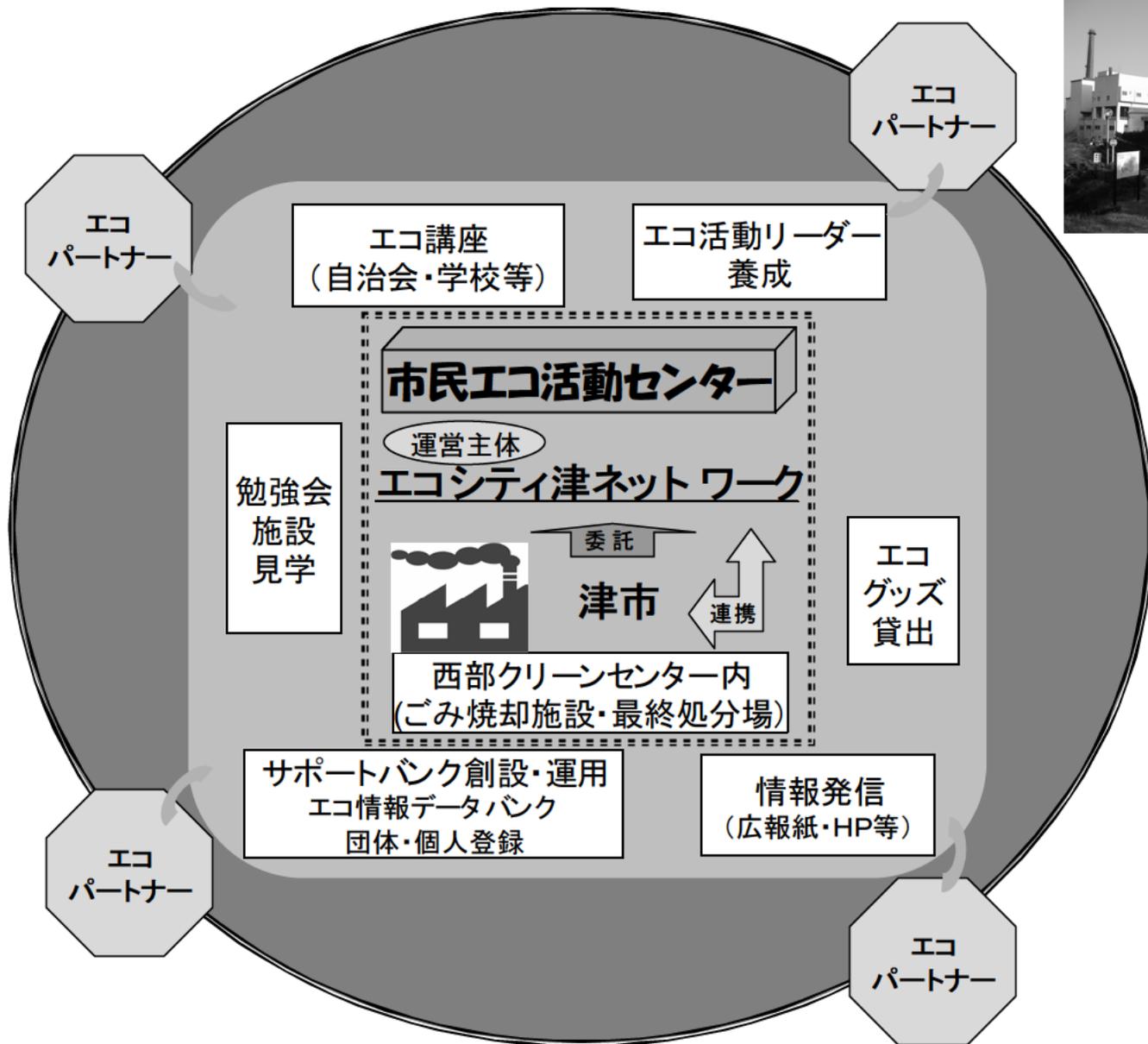
2箇所のステーションの運営状況をフォローし、その成果事例を踏まえて、

- ・市内他地域の自治会に働きかけ、地域住民の手による収集システムの拡大を図ること。
 - ・埋立ごみの現状分析、地域住民の声の把握等により、システムの効果検証を行うこと。
- について、市に働きかけていく。

埋立ごみやステーション運営の状況について、広く地域住民に周知する。

津市「エコパートナー・ネットワーク推進事業」

「みどり社会」を担う



人づくりネットワークづくり

H19ごみゼロプラン推進モデル事業(3)

津市：「エコパートナー・ネットワーク推進事業」

1.事業のねらい

市民が自発的に環境やごみ減量化について考え行動することをめざし、市民が運営主体となる活動センターをごみ焼却施設内に整備し、子どもたち等への実践的な環境学習の場とするとともに、活動・情報発信の拠点として、市民と行政が連携して様々なエコ活動を行い、ごみゼロ社会をめざす人づくり・ネットワークづくりを図る取組を、モデルとして支援し、県内市町への普及を目指す。

2.事業の成果

- 1.市民団体が運営主体となる市民エコ活動センターが焼却施設(津市西部クリーンセンター)内に整備され、ごみ処理を間近に体感できる情報発信・活動の拠点となっている。
- 2.エコ活動リーダーの養成に向けた人材掘り起こしの活動やエコ講座の出張開催など、市民の自主的なエコ・環境活動を促進するための取組や啓発を推進している。
- 3.エコ講座の参加者など、ともに環境活動を推進できるエコパートナーとして、個人や活動団体等の情報収集が進んでいる。
- 4.情報発信・活動拠点の整備が行われるとともに、エコ・ごみ減量化活動を担う人材や活動団体のネットワーク化に向けた基盤が整い、今後の進展が期待できる。

3.課題

・市民エコ活動センターを拠点としながら、特徴的・効果的な啓発や環境教育等が実施されるとともに、運営団体・市民・市の連携のもと、地域においてエコ活動・ごみ減量化に取り組む個人や団体等の育成がさらに進められ、ごみゼロ社会実現の担い手と位置づけているエコパートナーの結びつき・ネットワークの拡大が、より一層進展することが求められる。

4.今後の取組

- ・市民エコ活動センターの立地特性を生かした施設見学や体験型講座・勉強会、あるいは出前講座など、ごみの減量化・リサイクルを考える「エコ講座」を開催する。
- ・地域の学校や自治会などにおける、ごみ減量化やリサイクルに関わる講座等の機会を活用される「エコグッズ」ツールの開発と貸し出しを実施する。
- ・エコ情報のデータバンクとして、エコ活動・ごみ減量化等に取り組む個人・団体の登録と活用を図る「サポートバンク」を創設し、活動ネットワークの拡大に向けた運用を図る。
- ・市民エコ活動センターは情報発信基地・活動拠点として運営を図り、HPや広報誌の発行等による情報発信を進める。
- ・地域において地域のごみ減量化を先導する「エコ活動リーダー」の養成に取り組む。

5.今後の検証・フォローの視点

エコ活動リーダー等の取組に関わる「エコパートナー」の養成数や、各種講座の開催数、参加人数や参加者の意見、サポートバンクの運用の状況など、ネットワークづくりの状況を測るメルクマールとなる指標を設定し、現状や効果を把握・検証しながら取組を進めていくことを、市に働きかけていく。

エコ活動センターの運営状況やエコパートナー拡大の状況等について、広く地域住民に周知する。

家庭系ごみの有料化導入に伴う効果

【伊賀市】

【導入時期】平成19年1月

【対象】可燃ごみ

【袋単価】 20L:10円 30L:15円 45L:20円

家庭系ごみの可燃ごみの月別排出量を前年同月比較したところ、平成19年1月から12月の一年間で6.3%の減量効果がありました。

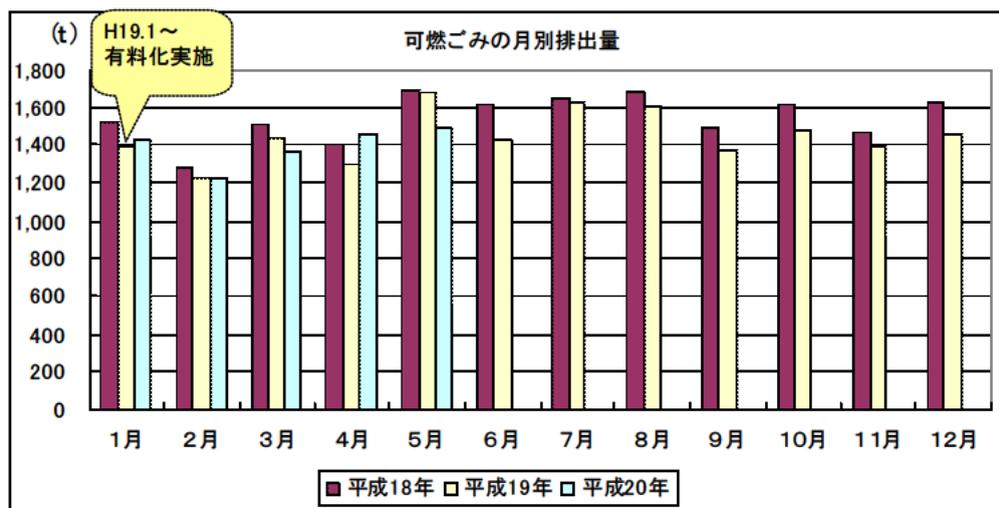
また、有料化1年経過後の平成20年1月から5月の5ヶ月間では、有料化前年の同月比で6.0%の減量であり、有料化の導入1年経過後も同様に減量効果が継続しています。

表 伊賀市の可燃ごみの排出量（平成19年1月～平成19年12月）

年月	排出量(トン)	前年の同期間 排出量(トン)	増減量(トン)	増減率(%)
H19.1～H19.12	17,397	18,569	▲ 1,172	▲ 6.3

表 伊賀市の可燃ごみの月別排出量（有料化導入前年同月との比較）

年月	排出量(トン)	有料化前年の 同月排出量(トン)	増減量(トン)	増減率(%)
平成20年1月	1,431	1,530	▲ 99	▲ 6.5
平成20年2月	1,229	1,284	▲ 55	▲ 4.3
平成20年3月	1,371	1,512	▲ 141	▲ 9.3
平成20年4月	1,458	1,404	54	3.9
平成20年5月	1,493	1,698	▲ 205	▲ 12.1
合計	6,982	7,428	▲ 446	▲ 6.0



【鳥羽市】

【導入時期】平成18年10月
 【対象】可燃ごみ、不燃ごみ
 【袋単価】 10L:10円 20L:20円 30L:30円 45L:45円 90L:90円

家庭系ごみの可燃ごみ及び不燃ごみの月別排出量を前年同月比較したところ、平成18年10月から平成19年9月の一年間で可燃ごみ13.4%、不燃ごみ18.1%の減量効果がありました。

また、有料化1年経過後の平成19年10月から20年4月の7ヶ月間では、有料化前年の同月比で可燃ごみ10.7%、不燃ごみ12.3%の減量であり、有料化の導入1年経過後も同様に減量効果が認められますが、前年と比べ増減率は増加傾向にあります。

表 鳥羽市の可燃ごみの排出量（平成18年10月～平成19年9月）

年月	排出量(トン)	前年の同期間 排出量(トン)	増減量(トン)	増減率(%)
H18.10～H19.9	3,935	4,543	608	13.4

表 鳥羽市の不燃ごみの排出量（平成18年10月～平成19年9月）

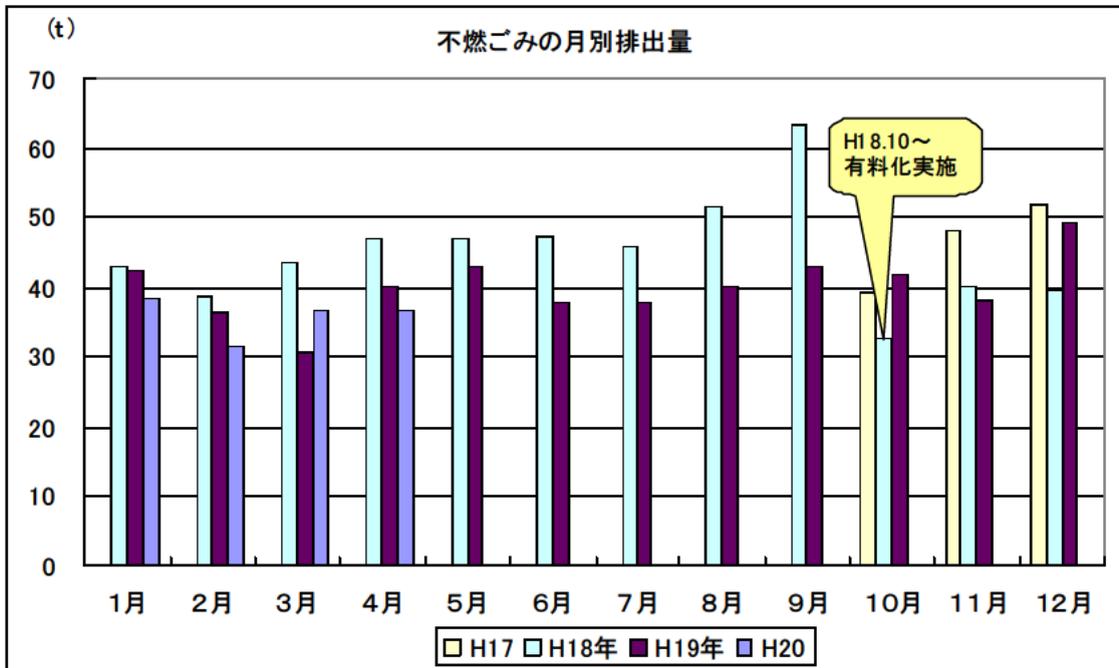
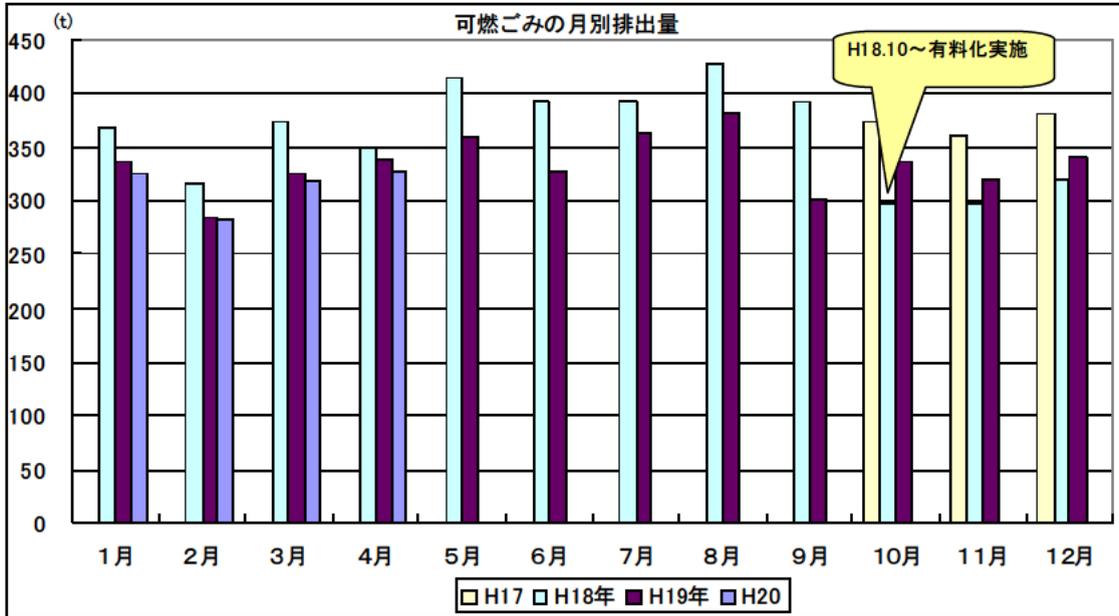
年月	排出量(トン)	前年の同期間 排出量(トン)	増減量(トン)	増減率(%)
H18.10～H19.9	464	567	103	18.1

表 鳥羽市の可燃ごみの月別排出量（有料化導入前年同月との比較）

年月	排出量(トン)	有料化前年の 同月排出量(トン)	増減量(トン)	増減率(%)
平成19年10月	337	374	37	10.0
平成19年11月	320	361	42	11.5
平成19年12月	341	380	39	10.3
平成20年1月	326	369	43	11.7
平成20年2月	284	315	32	10.0
平成20年3月	319	373	54	14.6
平成20年4月	327	349	22	6.3
合計	2,252	2,522	270	10.7

表 鳥羽市の不燃ごみの月別排出量（有料化導入前年同月との比較）

年月	排出量(トン)	有料化前年の 同月排出量(トン)	増減量(トン)	増減率(%)
平成19年10月	42	39	3	7.2
平成19年11月	38	48	10	20.5
平成19年12月	49	52	2	4.8
平成20年1月	39	43	4	10.4
平成20年2月	31	39	7	18.6
平成20年3月	37	44	7	15.9
平成20年4月	37	47	10	21.5
合計	273	312	38	12.3



【名張市】

【導入時期】平成20年4月
 【対象】可燃ごみ、不燃ごみ
 【袋単価】 5L:6円 10L:13円 20L:28円 30L:45円 45L:68円

家庭系ごみの可燃ごみ及び不燃ごみの月別排出量を前年同月比較したところ、平成20年4月と5月の二ヶ月で可燃ごみ25.2%、不燃ごみ23.9%の減量効果がありました。

表 名張市の可燃ごみの月別排出量（有料化導入前年同月との比較）

年月	排出量(トン)	有料化前年の同月排出量(トン)	増減量(トン)	増減率(%)
平成20年4月	856	1,136	▲280	▲24.6
平成20年5月	957	1,286	▲330	▲25.6
合計	1,812	2,422	▲609	▲25.2

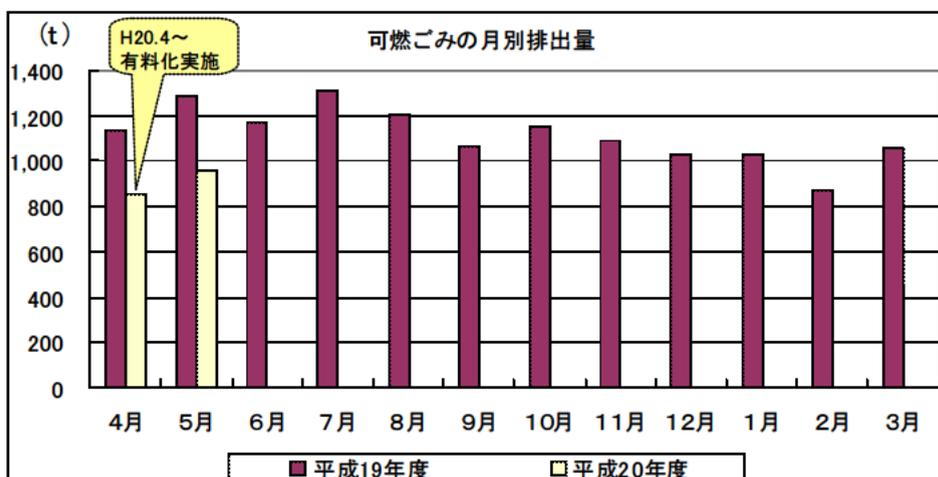
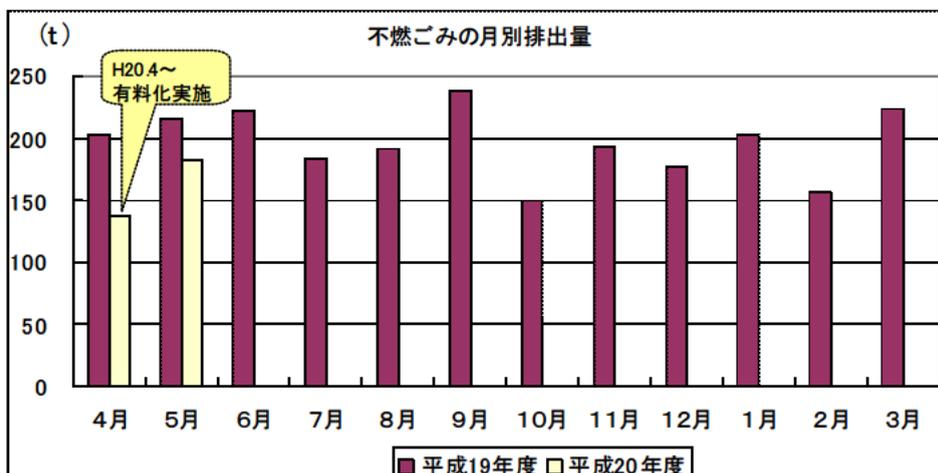


表 名張市の不燃ごみの月別排出量（有料化導入前年同月との比較）

年月	排出量(トン)	有料化前年の同月排出量(トン)	増減量(トン)	増減率(%)
平成20年4月	137	204	▲67	▲32.6
平成20年5月	182	216	▲34	▲15.7
合計	319	420	▲100	▲23.9



H20年度ごみゼロプラン推進モデル事業 実施計画

引き続き、他の市町・地域の参考となる、市町が住民・事業者・団体等の多様な主体との連携・協働で実施する先駆的・実験的なごみ減量化の取組をモデル事業として支援します。

< 現時点での実施予定事業 >

鳥羽市「事業系ごみ(食品廃棄物)再資源化システム検討事業」

ホテル・旅館などから発生する食品廃棄物の減量化・リサイクルループの構築をめざし、ホテル・旅館、商工会議所等と連携してモデル事業所を選定し、事業系ごみの再資源化に向けたシステムの検討・実証事業を行う。

伊賀市「レジ袋有料化検討事業」

・レジ袋削減・マイバッグ持参の推進をめざし、隣接する名張市と連携調整を図りつつ同時でのレジ袋有料化スタートをめざすとともに、ドラッグストア・コンビニ・ホームセンター等にも参画を求め、より幅広い枠組みでのレジ袋削減の取組を推進する。

「レジ袋有料化検討事業」

・レジ袋削減・マイバッグ持参の推進をめざし、隣接市町の広域ブロックが一体となって、住民・事業者・団体・行政等で構成される検討組織を設置し、レジ袋有料化等の検討や啓発活動等の実施に合同で取り組み、広域でのレジ袋同時一斉有料化の実現をめざす。

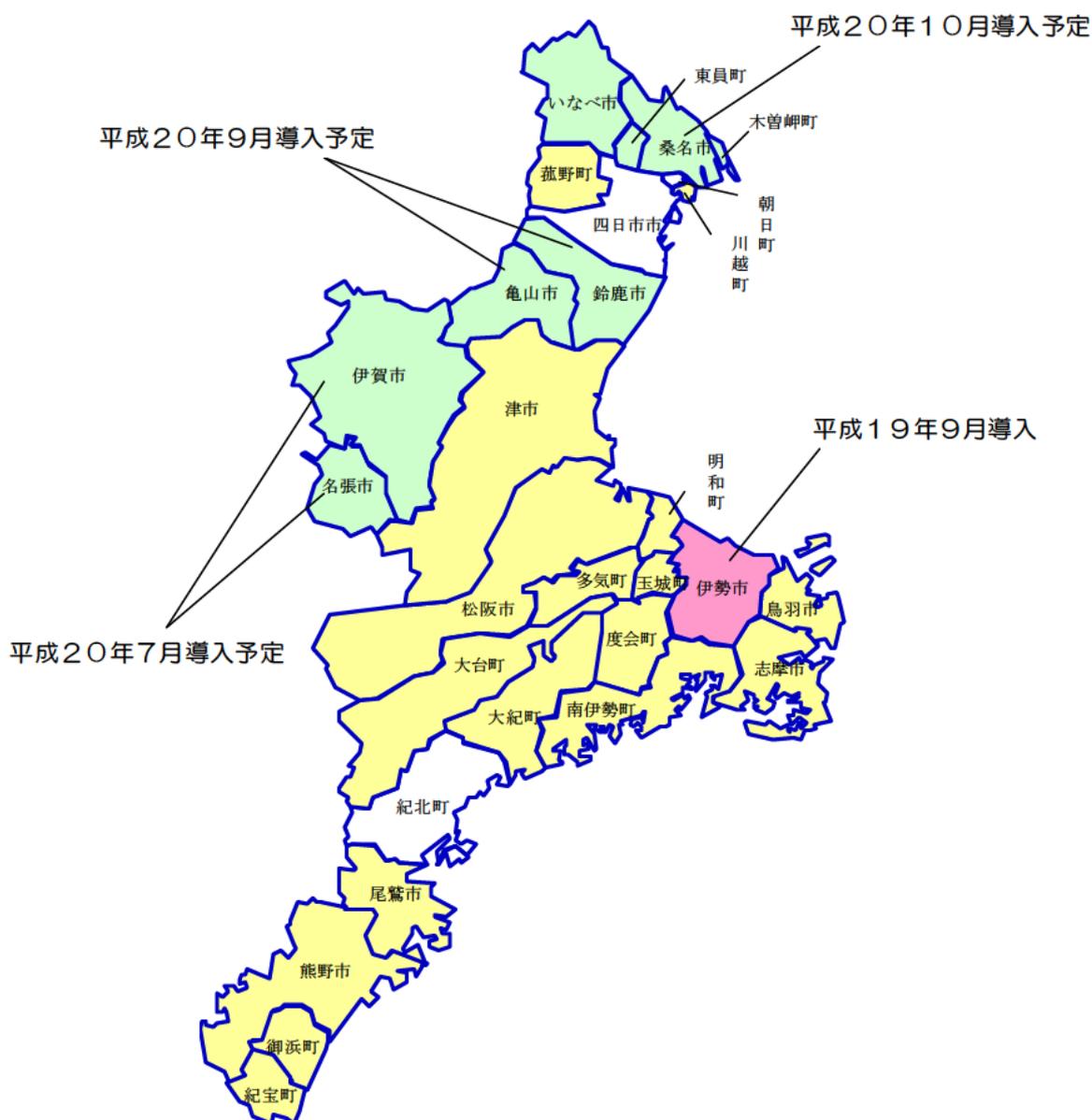
「廃棄物会計等を活用した市ごみ処理基本計画づくり」

・H17年度以降の廃棄物会計基準策定取組への参画実績を踏まえて、それらを生かし、市民への説明責任を果たしながら、市民とともに一般廃棄物処理基本計画の策定を進める。

「レジ袋の有料化」についての三重県内市町の状況

平成20年 6月10日現在
県ごみゼロ推進室 調べ

レジ袋有料化導入時期	自治体名
平成19年 9月21日導入	伊勢市 [8社22店舗]
平成20年 7月導入予定	名張市 [4社7店舗] ・ 伊賀市 [4社9店舗]
平成20年 9月導入予定	鈴鹿市・亀山市 [10~15社30~35店舗]
平成20年10月導入予定	桑名市・いなべ市・木曾岬町・東員町 [18社40店舗]
有料化について、 今後検討を進める予定	津市・松阪市・尾鷲市・鳥羽市・熊野市・志摩市・ 菰野町・川越町・多気町・明和町・大台町・玉城町・ 南伊勢町・度会町・大紀町・御浜町・紀宝町
検討する予定はない	四日市市・朝日町・紀北町



ごみ減量化啓発DVD・パンフレット制作

1. 目的

三重県では「ごみを出さない生活様式」や「ごみが出にくい事業活動」が定着し、ごみの発生・排出が極力抑制され、排出された不用物は最大限資源として有効利用される「ごみゼロ社会」の実現を目指し、住民、事業者、市町等との協働のもとに「ごみゼロ社会実現プラン」を策定した。

その実現に向けた取組をさらに広げていくため、子どもたちを対象に、ごみ減量化の取組を分かりやすく説明したDVDとその概要を掲載したパンフレットを制作するとともに、制作したDVDは、ホームページでも動画配信する。

これらにより、小さな子どもから大人まで多くの県民の方々に、家庭から排出されるごみの現状や減量化方法を周知することにより、ごみ減量化の取組をより一層推進する。

2. 内容

(1) DVD・パンフレットの仕様

①制作するDVDは、子どもたちが楽しく親しみながら分かりやすく理解できる内容とし、その概要を掲載したパンフレットとともに小学校等での環境教育・環境学習等において活用できる内容とすること。

②構成は次の5項目を基本のコンテンツとし、三重県ごみゼロキャラクター「ゼロ吉(家族含む。)」のアニメーション・CGを用いて15分程度で制作すること。ただし、各コンテンツのタイトルはコンテンツの趣旨に沿ったものであれば、変更することができる。

ア ホントにごみは、たくさん出されているの？

イ ごみが減らないとどうなるの？

ウ 三重県はだいじょうぶ？

エ 三重県内では、どんな取り組みがあるの？

オ わたしたちにできることってなにか？

③パンフレットの内容・構成等は、DVDに沿って制作すること。

④映像、写真に三重県内のごみ処理施設、減量化の取組等を取り入れること。

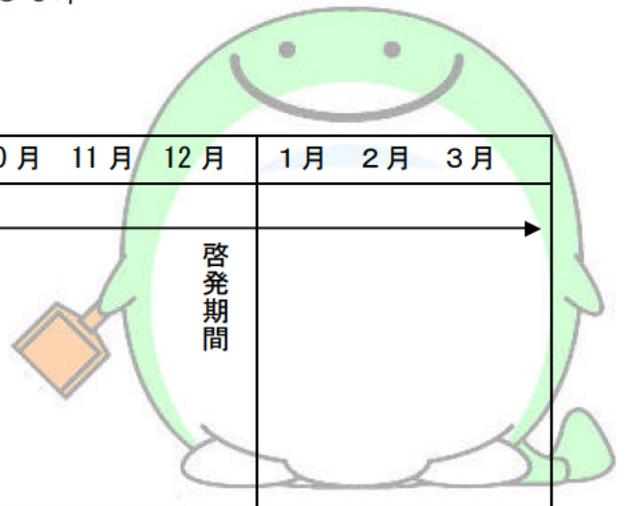
3. 成果品

(1) DVD 100枚, VHSビデオテープ 30本

(2) パンフレット 20,000枚

4. スケジュール

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
DVD, パンフレット	← 選定委員会		← 制作期間			← 啓発期間			←	



ごみを出さない暮らしをしていますか？

三重県では、「ごみゼロ社会実現プラン」を策定し、「ごみを出さない」、「ごみが出にくい」生活が当たり前のものとなり、どうしても出てしまうごみは、資源として有効利用される「ごみゼロ社会」をめざして取組を進めています。

みんなでめざそう “ごみゼロ社会”

風呂敷っていろいろ使えて便利だよ♪

マイバックを持ってお買い物♪

お出かけにはマイボトル♪



三重県ごみゼロキャラクターゼロ吉

「ごみゼロ社会」づくりは、県民の皆さんの暮らしに関わる重要な取組です。家庭から出されるごみの量は、この10年間ほぼ横ばいで変わっていません。もし、このままごみの排出が続けば・・・

①地球温暖化の進行

②大切な資源がなくなる

③施設の更新に伴う費用負担

④埋立処分場で処理しきれない

といった事態を招き、ごみ処理システム自体が破綻しかねません。そこで、三重県では、今まで以上にみんなが協力して、「ごみゼロ社会」の実現をめざした新しい社会のしくみづくりに取り組んでいます。

ごみを

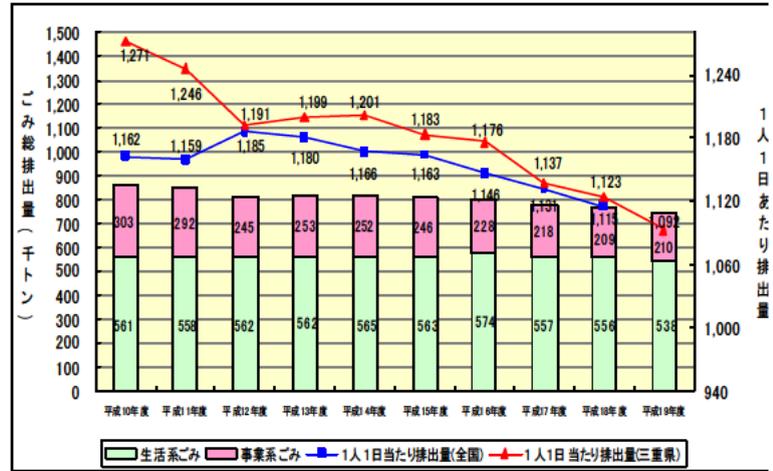
減らしましょう



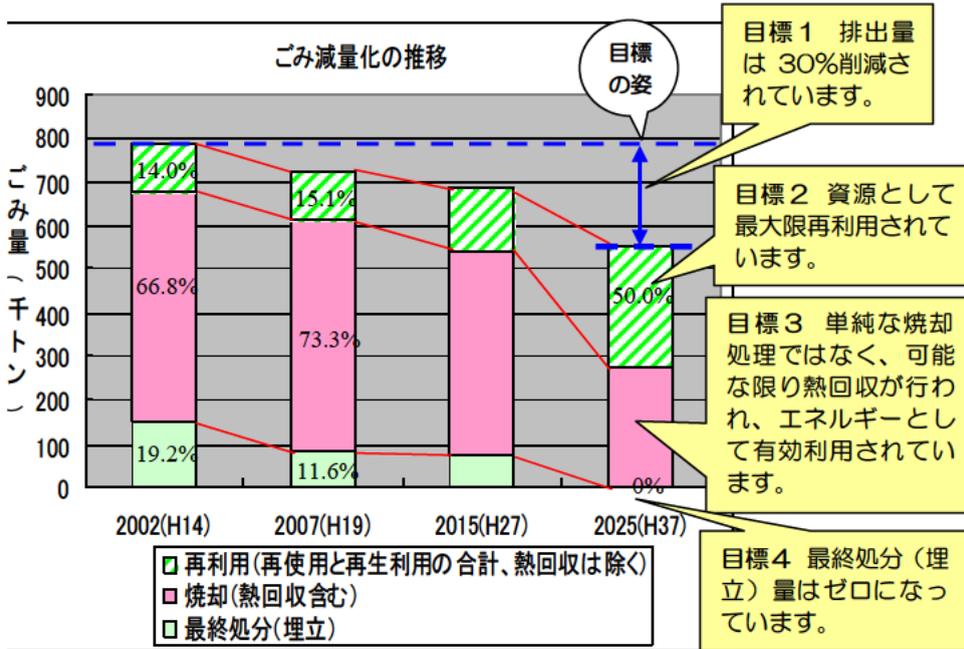
ごみは、どのくらい出されているの？

ごみの排出量について、ここ数年の推移をみると、事業系ごみは順調に減少している一方で、家庭から出る家庭（生活）系ごみは横ばいという状況が続いています。

また1人1日当たりごみ排出量でも、平成18年度は、17年度に比べて1.4%ほど、5年前の13年度からは6%ほど減少しており、同様に減少傾向が続く全国平均との差は近年縮まっています。



ごみをどのくらいまで減らせばいいの？



平成37年度には、平成14年度と比較して、ごみの排出量が30%削減されることを目標としています。また、やむを得ず排出されたごみの50%は、資源として最大限再利用され、資源として有効利用されず、最終的に埋め立てられるごみを“ゼロ”にすることを私たちの目標としています。

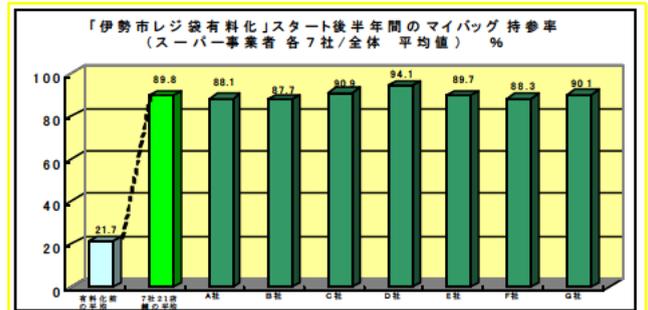


ごみ減量化には、どんな取組があるの？

伊勢市では、平成19年6月に「ええやんか！マイバッグ(レジ袋有料化)検討会」を立ち上げ、事業者・市民・行政が協働して議論を進めた結果、市内の主要スーパー全店で、平成19年9月21日から、食料品売場のレジ袋が一斉に有料化されています。有料化後のマイバッグ持参率は約90%と、実施前の約20%から大幅にアップしています。

県ではこのような、ごみ減量化に向けての地域の取組みを支援しています。

～伊勢市：レジ袋有料化・マイバッグ持参の取組～



市町村ごみ処理システムの最適化の取組について

1 実施目的

ごみゼロ社会実現プランにおいて、「コスト削減」と「環境負荷低減」という2つの観点からごみ処理システムの最適化を図る市・町の取組を支援するとともに、市・町が住民に対して分かりやすく的確な情報提供を行うことが可能とするとともに、より効率的な事業運営を促進することを目的に、市・町のごみ処理事業における廃棄物会計の導入を促進する。

また、市・町ごとのごみ処理システムの状況を把握し、効果的な施策を検討できるように「ごみ処理カルテ」を策定することにより、ごみ処理システムの現状及び方向性について県と市・町が情報の共有化を図ることに資する。

2 ごみ処理カルテ

一般廃棄物の処理に関する事業の効果をごみの排出量、資源化回収、エネルギー回収量、二酸化炭素の排出削減、住民サービス水準、処理コスト等の複数の指標により評価を行うとともに、ごみ処理施設の施設情報（処理方式、稼働年、熱回収等）ごみ処理有料化や生ごみ堆肥化の取組などの施策情報を網羅的に管理し、これらの情報をもとに類似市町との比較を行うことにより、市・町ごとの強みや弱みを明確にし、市町ごみ処理システムの一層の効率化を図るための資料とする。

ごみ処理カルテ イメージ

カルテ：市町のごみ処理状況が俯瞰でき、市町ごとの強み・弱みを把握できるにより、個々の市町のごみ処理システムに整合した施策の検討立案等を支援するツールとする。

< 構成 >

カルテ総括表

（ごみ処理状況を俯瞰する）

- ・ 基本情報（人口、世帯数、面積等）
- ・ ごみ処理（排出量、分別区分、収集形態、処理手数料等）
- ・ ごみ施策（有料化、資源化、レジ袋削減等の導入状況）
- ・ 処理費用（廃棄物会計（原価計算、行政コスト計算等））
- ・ 施設情報（焼却・RDF・溶融化等の規模、稼働年等）

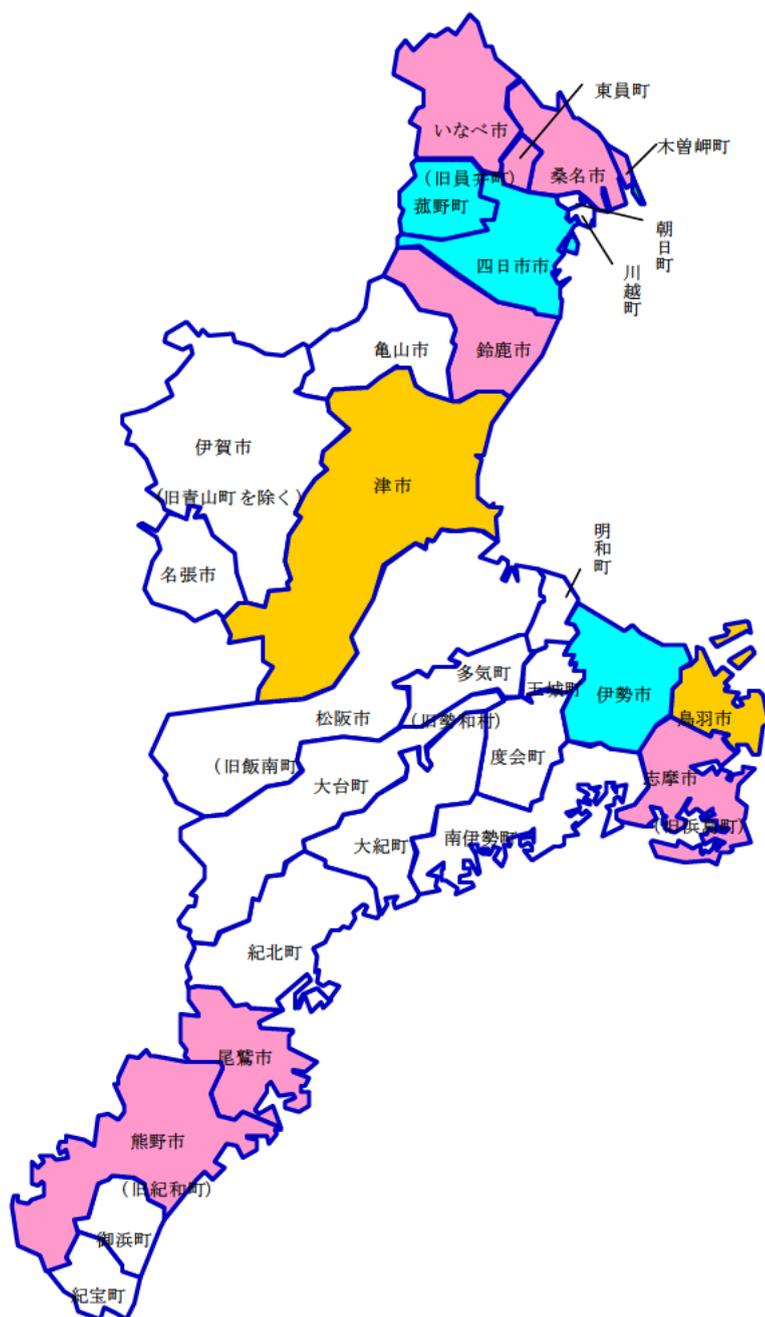
3 今年度の展開

県は、これまでに廃棄物会計に関する啓発活動の一環として市・町向けの説明会等を開催し、廃棄物会計基準を13市町に導入しており、今年度は、引き続き、市・町に対し廃棄物会計に関する導入の啓発活動を実施するとともに、ごみ処理カルテのパイロット版を策定し、市町との情報の共有化を図る。

市町ごみ処理システム最適化の導入状況

平成 17 年度	■	四日市市、菰野町、伊勢市	3 市町 (3)
平成 18 年度	■	津市、鳥羽市	2 市 (5)
平成 19 年度	■	鈴鹿市、志摩市、尾鷲市、熊野市、 桑名広域清掃事業組合 (いなべ市・ 桑名市・木曾岬町・東員町) 鳥羽志勢広域連合	8 市町 (13)

(累計 13 市町 (一部事務組合・広域連合除く))



ごみゼロ県民セミナー

～あなたの行動を大きなごみ減量につなげませんか～

ごみの減量に関心はあるけれど、自分一人の行動だけでは、たいして変わらないと思いませんか？

一人ひとりの行動は小さくても、みんなの力が集まれば大きな変化を呼び起こす力になります。

今回のセミナーでは、その参考になる取組をお伝えします。

みんなで一緒にごみ減量について考え、そして行動をはじめませんか。

日 時

平成20年 7月19日(土)

13:30～16:00 (受付 13:00～)

場 所

三重県総合
文化センター

生涯学習センター4階

大研修室(定員120名)

(津市一身田上津部田1234)

三重県ごみゼロキャラクター「ゼロ吉」

参加費:無料、先着120名お申込受付(裏面参照)

主催:三重県

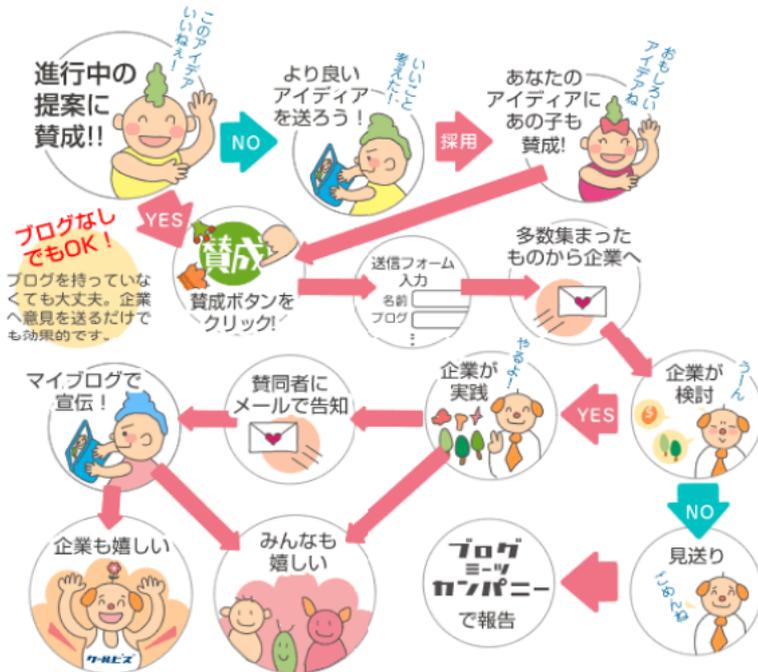
三重県環境森林部ごみゼロ推進室

TEL 059-224-3126 FAX 059-229-1016

E-mail) gomizero@pref.mie.jp URL) <http://www.eco.pref.mie.jp/gomizero/>

ごみゼロ県民セミナー ～あなたの行動を大きなごみ減量につなげませんか～

1. 講演 ～消費者の声が企業を変える、ごみを減らす～ ブログミーツカンパニー 代表 広田 奈津子 氏 (13:40～)



「使い捨てない容器で飲料を売って欲しい」「不格好な野菜も捨てずに販売して」ブログミーツカンパニーのサイトには、様々なエコ提案が寄せられています。提案は、賛成者の多いものから企業に届けられ、実現されれば参加者がロコミ応援でサポートします。実際に提案を実現する企業も現れ、ごみを削減する新たな取り組みとして注目を集めています。代表の広田奈津子さんに、海外のごみ事情も含めてお伝えいただきます。ブログミーツカンパニーのURL <http://www.blog-meets.com/>

2. 事例発表 ～レジ袋削減の歩み～

レジ袋の削減は、皆さんが日常生活の中で参加できる、身近なごみ減量の取組です。削減のきっかけとなるレジ袋の有料化は、県内では最初に平成19年9月21日から伊勢市で始まりました。有料化の結果、以前は約20%だったマイバッグ持参率が、90%までアップしています。また、伊賀市・名張市でも、今年の7月1日の有料化に向けて取組が始まっています。2つの地域の行政・市民、それぞれのお立場から、現在の取組状況をお伝えいただきます。

1. 伊勢市環境部資源循環課 課長 阪本 保夫 氏 (15:10～)
2. 伊賀環境問題研究会 代表 立田 彰子 氏 (15:30～)

(伊賀環境問題研究会は、環境の悪化を心配する家庭の主婦の方々によって1996年1月に結成され、環境出前講座等の活動を実施しています。)

セミナーへの参加を希望される方は、事前申し込みをお願いします。

FAXで参加申込書をお送りいただくか、電子メール又は郵送にて参加申込書の事項を記載の上、お送り下さい。

先着順に受付します。定員(120名)を越えてから申し込まれた方には、連絡させていただきます。

参加申込書 ごみゼロ県民セミナー (H20. 7. 19 三重県総合文化センター)		
ご氏名(フリガナ)	お住まいの市町名	電話番号、又はメールアドレス

FAX送付先 059-229-1016 (ごみゼロ推進室 森田、谷出あて)

電子メール送信先 gomizero@pref.mie.jp

郵送の宛先 〒514-8570 津市広明町13 三重県ごみゼロ推進室 森田、谷出あて

地域ごみゼロ推進交流会開催予定

プラン推進の取組への県民の参画を促進し、住民等の自発的、主体的なごみ減量化の取組の活性化やそれらの広域展開とレベルアップを図るため、ごみゼロの取組に関心のある住民やNPO等を対象として、活動内容の発表や情報交換など参加者同士の情報交流、先進事例やリサイクル制度等についての交流会を開催する。

また、あわせてプランのPRや取組への参画を呼びかける。

環境事務所	交流会名（仮名）	交流会の概要
桑 名	〇〇地区運動会deごみゼロ	学校の体育祭や地区の運動会など既存のイベントにごみゼロの視点を盛り込み（マイ箸持参でごみを出さない運動会など）、例年よりも一步エコでごみゼロなイベントを開催するため、県は主催者（生徒会・自治会など）に対して必要な助言・支援を行い、他地区の類似イベントへの波及効果を目指す。
四日市・鈴鹿	検討中	
津	生ごみの堆肥化	生ごみの堆肥化と将来展望についての講演と、生ごみ堆肥化に取り組むNPO等市民団体と活動をバックアップする自治体とのパネルディスカッションを行う。
松 阪	モノを大切に作る心を育てよう	利用しなくなった和服のリフォーム作品のファッションショーやおもちやの病院の臨時開院を行うとともに、それぞれの取組を行う方々と参加者との座談会を行う。
伊 勢	伊勢志摩地域ごみゼロ推進交流会	きれいな伊勢志摩づくり連絡会議メンバーをはじめ参加者の取組事例発表や意見交換後、ごみゼロ推進にかかる講演会を行う。
伊 賀	～ストップ！レジ袋～マイバッグ持参シンポジウム 「マイバッグ片手にこの一月を振り返ります」	レジ袋有料化の取組後の一ヶ月を振り返って、講演会やレジ袋有料化にかかわってきた方々をパネリストとして、パネルディスカッションを行う。
尾 鷲	検討中	
熊 野	「レジ袋削減、エコバッグ持参のとりくみ」	レジ袋削減とエコバッグの持参の取組についての講演会と参加者との意見交換会を行う。

生ごみ堆肥化講座開催予定

可燃ごみの約 3割を占める生ごみについて、家庭で簡易にできる生ごみの処理と堆肥化及び堆肥の利用について、市町からの要望に基づいて県民を対象に講座を行い、生ごみの再資源化の普及啓発を行う

生ごみ堆肥化講座

【生ごみの堆肥化について】

- 衣装ケース・スタンドバッグを利用した一次・二次処理の基本的な考え方
- ・堆肥化のメカニズムについて
- ・家庭で行う一次・二次処理について
- 衣装ケースの加工、床材づくり及び二次処理の実演及び実習

【生ごみ堆肥の利用について】

- 家庭での堆肥利用方法
- ・生ごみ堆肥を利用した野菜作りや花作りについて

【開催希望市町】

いなべ市、伊勢市、大紀町